

小姓になつた姫

1 身分の別なく 美しい娘さんたち皆さんのが
ひとりひとりに お話ししますよう
この国で わたしが迎つた人生を
わかつていただけますでしよう

2 高貴な家に生まれつき
お父さまのたつたひとりの跡継ぎでした
でも やさしいお父さまが亡くなつて
若い騎士の花嫁になりました

3 愛する人が 館を建ててくださいました
香しい花で飾られた
この世で一番素敵な館

4 愛する人がわたしに建ててくださいました
ある晩遅く 泥棒が入り込み
館は荒され 愛する人は殺されました
夫が殺されてしまつては
もう そこには留まれません

5 困つたわたしをひとり残して
召使たちは皆逃げてゆきました
ひとりばつちで取り残されて
石よりも冷たい気持ちになりました
こころは憂いでいっぱいでしたが
天はお見捨てにはなりません
美しいイリーズから ハンサムなウイリアムに
急いで 名前を変えました

6 すぐさま 髪を切り落とし
男装に身を包み
ダブルケットに ズボンに ビーバーの帽子
首には金の鎖を巻きつけました

7 脇には細身の剣を差し
伊達者よろしく 馬に乗つてゆきました
望んでいたのはただひとつ
高貴なお方の従者となること

8 高価な服に身を包み

9

勇ましく 馬で駆けてゆきました
ついに チヤンスがおとづれて
王さまのお城に着きました

王さまにうやうやしくお辞儀して
愛と忠誠を誓いました
「お仕え申し上げたい」と
お願いしました

「立つがよい 若者よ
おまえの願いを聞き入れよう
まず 何ができるか言つてみよ
何の役にたてるかを

「広間の守衛が勤まるか
貴族たちに仕える役
ワインの毒味役が勤まるか
食事の時にわしの側で仕える役

「小姓の役が勤まるか
ベッドを柔らかく整える役
護衛の役が勤まるか
これができれば 褒美をやろう」

ウイリアムは微笑んで
王さまに言いました
「もしも お許しいただけるなら
王さまの小姓にしてください」

王さまは貴族たちを呼び寄せて
皆の意見を聞きました
一同は賛成し
ウイリアムは王さまの小姓になりました

ウイリアムはただひとり
ほかには老人がひとりだけ
浜辺には他に誰もいないと知つて
手持ちのリュートを取り出しました

17
16
15
14
13
12
11
10

18 ウィリアムはリュートを奏で
曲にあわせて歌いました

うつとりするような気高い声に
老人はたいそう喜びました

19 「わたしの父は りっぱな貴族
ヨーロッパ中で一番の りっぱな貴族
わたしの母は 美しい貴婦人
わたしの夫は 勇敢な騎士

20 「わたしもほんとうは キレイな貴婦人
豪華なドレスをまとつた貴婦人
その国のどんなにきれいな娘でも
わたしほどの幸せ者はいませんでした

21 「毎日 しらべを奏でては
美しい曲を弾きました
きれいな侍女がとりまいて
日毎夜毎に仕えました

22 「ああ でも 夫は殺され
友は逃げてゆきました
幸せはあつという間に消え去つて
今は小姓となつて仕える身」

23 王さまが狩りから戻つてくると
すぐさま
老人を呼び寄せて
聞きました

24 「老人よ 聞かせておくれ
変わつたことはなかつたか」
「すばらしい知らせです」
「ウイリアムは 実はりっぱな貴婦人でした」

25 「もしも それが本当ならば
おまえを位の高い貴族にしよう
もしも それが嘘ならば
ただちにおまえは絞首刑」

26 それが本当とわかつたときに
王さまは大喜び
老人が言つたとおり
ウィリアムはりっぱな貴婦人でした

王さまは すぐさま
豪華なドレスをまとわせて
金の冠かぶらせました
見るも眩まばゆい冠かぶでした

面倒なことが起きないうちにと
ウイリアムを すぐにも妃に迎えました
小姓が王妃になるなんて
こんなことがあつたでしょうか

(中島久代訳)